

## 森博嗣『すべてがFになる』

### <概要>

本講義では理系ミステリ作品を題材とし、暗号など、それが社会でどのように使われているかにも触れる。整数の特性は、実用面では、コンピュータの普及と技術革新にともない、コンピュータプログラムの中などで盛んに利用されている。また、実用面を無視しても、整数の不思議な性質は、太古より人類を魅了してきたものである。

### <到達目標>

『すべてがFになる』を通じて主に、N進数の概念を理解し、暗号解読技術を身に付けること。

### <あらすじ>

14歳のとき両親殺害の罪に問われ、外界との交流を拒んで孤島の研究施設に閉じこもった天才工学博士、真加田四季。教え子の西之園萌絵とともに、島を訪ねたN大学工学部助教授、犀川創平は1週間、外部との交信を断っていた博士の部屋に入ろうとした。その瞬間、進み出てきたのはウェディングドレスを着た女の死体。そして、部屋に残されていたコンピュータのディスプレイに記されていたのは「すべてがFになる」という意味不明の言葉だった。



: HPサラダマテリアルのあふおりずむより転載

---

\*disclaimer: このレジюме内容に関しては筆者の個人的見解を示すものであり、所属先の見解を必ずしも反映していない。文責は筆者のみに帰する。

## 森博嗣の紹介

作者が工学部の助教授であったことに加え、デビュー当時は一般的でなかったコンピュータや電子メールを駆使する人物、科学や工学分野に関する専門的な会話が説明無しに交わされたり、作中で難解な数学問題が提示されるという展開から「理系ミステリィ」と評された。理系小説と称される理由としては、外来語のカタカナ表記に関して音引きを省略する点が挙げられる。

## 作品紹介

『すべてがFになる』のシリーズ作品集

S & Mシリーズのみを乗せることにする。

(ミス研内部に森博嗣ファンがいるため、他の作品はその方にまかせるための配慮である)

すべてが F になる The Perfect Insider 講談社ノベルス、1996

冷たい密室と博士たち Doctors in Isolated Room 講談社ノベルス、1996

笑わない数学者 Mathematical Goodbye 講談社ノベルス、1996

詩的私的ジャック Jack the Poetical Private 講談社ノベルス、1997

封印再度 Who Inside 講談社ノベルス、1997

幻惑の死と使途 Illusion Acts Like Magic 講談社ノベルス、1997

夏のレプリカ Replaceable Summer

今はもうない Switch Back

数奇にして模型 Numerical Models

有限と微小のパン The Perfect Outsider

第1回メフィスト賞を受賞したデビュー作『すべてがFになる』から始まる一連のシリーズ。シリーズ名は主人公である犀川創平と西之園萌絵のイニシャル、「S」と「M」に由来する。大まかな話の流れとしては、西之園萌絵が事件を持ち出し（あるいは巻き込まれ）、犀川創平がやむを得ず解決するという構成。

## 各章の概要説明

### 1章 白い面会

萌絵は天才と形容するにふさわしい真賀田博士を尋ねた。人間アレルギーの博士は直接対面するのではなく、ディスプレイ上での対談であった。画面の中の少女(そう呼ぶに相応しい)は薄い手袋をしていた。後日、大学の犀川研内で真賀田研究所がある妃真加島にキャンプに行くことになった。

### 2章 蒼い再訪

島に訪れた犀川研一行、研究所を見てみたい犀川はその思いを内に隠していた。萌絵は犀川の気持ちをくみ、研究所に入ろうと決意した。なんとか入れた二人は予期しない事件に出くわすのだった。

### 3章 赤い魔法

真賀田博士と思われるウェディングドレスに身を包んだ遺体を発見。遺体はなぜか両手両足がなかった。一方、管理システムであるデボラの不具合でメールは届くが送ることができない。新藤所長が自家用機で真賀田未来を連れて登場。自家用機に搭載した無線で本土に事件のことを伝えようとするのだが……

### 4章 褐色の過去

消息不明となった所長が操縦席で刺されて死亡していた。未来の荷物がなくなる事件も発生。真賀田博士の部屋に入ることを決めた犀川一同は部屋でロボット、ミチルを発見。主な役割はドアの開け閉めである。奇妙なメッセージを見つけた一同。「すべてがFになる」

・ここで、真賀田博士が両親を殺した場面が説明される。

「四季博士はどんな様子でしたか？」萌絵が尋ねると、「何か焦点の定まらない目つきで放心状態でした。私、よく覚えています。博士は倒れるときに、『絶対、許さんぞ』って叫ばれたのです。その声で、四季さんは急に何か、とりつかれたような表情になって、一度悲鳴を上げて、その次は大笑いをされたんです……」

・刑法 39 条

- 1 心神薄弱者ノ行為ハコレヲ罰セズ
- 2 心神耗弱者ノ行為ハソノ刑ヲ減刑ス

責任能力とは、一般的に、自らの行った行為について責任を負うことのできる能力をいう。民法と刑法における責任能力の定義は異なるが、刑法の場合、物事の善悪を分別し、かつそれに従って行動する能力をいう。責任能力が存在しない状態を責任無能力と呼び、責任能力が著しく減退している場合を限定責任能力と呼ぶ。責任無能力としては心神喪失や14歳未満の者が、限定責任能力としては心神耗弱が挙げられる。刑法は39条第1項において心神喪失者の不処罰を、41条において14歳未満の者の不処罰を、39条2項において心神耗弱者の刑の減軽を定めている。

さらに知識を深めたい方は映画『39 刑法第三十九条』をご覧ください。

・「すべてがFになるとは」どういうことなのか。

結論から言うと、16進数のことである。進数について説明する前に、以下の文章を見ていただきたい。

**世の中には10種類の人間がいる。2進法を知ってる人間と、そうでない人間だ。**

理解できましたか。説明していきますね。2進数とは数字の0と1のみであらわされる世界を想像して下さい。その世界において10進数における2はどのように表現されるのか。これをもとにして16進数の説明をしようと思いますが、本文の結論に触れるため、解決編にしるす。

## 5章 灰色の境界

真賀田博士、所長が殺されたとされる件は所内では極秘扱いとされた。また、重要な契約のため、四季博士の殺害を一週間近く隠そうと計画していた。

## 6章 虹色の目撃

再び、真賀田博士の部屋を調査。壁、天井、床に隠し穴がある形跡はなかった。萌絵はバーチャリアリティ空間のゴーカートに試乗。そこで、何者かが扮した真賀田博士と出会う。萌絵は過去のつらい出来事を思い出す。

## 7章 琥珀色の夢

死体を検死した医師による供述により、真賀田博士の多重人格は偽りの可能性があると指摘。また、レッドマジックのシステムを停止させ、UNIXに切り替えようと試みる。犀川は密室トリックに科学的に実現が可能な方法に気づく。

## 8章 緋色の秩序

UNIXに切り替えようとした副所長は何者かによって殺された。警察に連絡が取れるようになり、警察の捜査が加わった。また犀川研のメンバーは本土に戻ったようである。

## 9章 黄色いドア

監視カメラによって、ドアは24時間監視されていたはずであるが、空白の一分間が存在していた。また、何かに気付いた萌絵は関係者をヴァーチャル空間に呼び出した。

## 10章 銀色の真実

この章は犯人当てと、トリックの謎に言及しているため後述する。

## 11章 無職の週末

平和な日常に戻った、犀川と萌絵。犀川は最後に真賀田博士と会う。

## 解決編

まず、犀川は監視ビデオの問題の解決策を提示する。ビデオは、時刻で1分単位でファイルとして保存されているが、時間を1分遅らせれば、同じ1分のファイルに、上書き保存される。上書きされるわけだから、古いデータは削除される。その消えた1分で脱出していた。監視カメラはレッドマジックとは異なる別システムで動いていたのだが、時間だけが共通データとして受け取っていたとの説明。

犀川は、関係者全員にヴァーチャル空間に集合するように告げる。ゴーカートに乗って、お互い会話できるシステム。参加人員に限りはなく、場所も問わない。ディスプレイと音声で会話可能。お互いの顔も表示され、真賀田博士が現われる。

女史に向かって萌絵は、上記のトリックを引用した上、自分の推理を語る。「ここに閉じ込められた時に、既に妊娠していた(当時14歳)。その子は閉じ込められた密室で生まれ、今では14歳になった。自分の母親(四季)を殺し、黄色いドアが開いた段階で、居住区の外に出た……。それは、母親が娘(仮称:ミチル)に、時間がきたら自分を殺し、ここから脱出するように教育していたから……」(要旨)

その時、仮想現実の四季は、反論する。「両親を殺したのは叔父(所長)であり、子どもの父親である」と。実に凄惨な内容である。そこで、四季は犀川だけを呼び、「いつか、また会うでしょう」と告げる。

仮想現実を終わらせた後、犀川は、萌絵の推理を一部修正。犯人は、四季の子供でなく、四季本人だと告げる。子どもは天才ではなく普通の子どもだった。そのため、本来の計画を捨て、四季は子供を殺す。そして、屋上に上がり、所長(叔父)を殺し、無線機を破壊します。

最初から、四季の妹は来ていなかった。出入りの記録は、システムが異常を起していますので、記録されない。そのまま、所長の妻のところへ、四季の妹として行きます。副所長はシステムの時限装置に気付いたため、殺されたのです。そして、犀川の他のメンバーにまぎれ、この島から脱出したと。証拠は、プログラムのソース・リストという形で一目瞭然に残されています。先の仮想現実は、全く別の場所から参加したと。

事件は解決したが、四季は逮捕されていない。ある日、犀川と萌絵は、大学の図書館で待ち合わせをします。図書館にいる犀川のところへ、四季は現われる。約束を守ったのである。そして、犀川に接近することを予想した警察は尾行を続けています。犀川と別れた四季を、3人の男が取り囲みます……。

遅れてやってきた萌絵は、犀川に会います。警察からの情報を、彼女は伝えます。犀川の尾行は、昨日で中止になったと……。女カニバル・ハニバル(「羊たちの沈黙 1991年」の主人公)の誕生です。映画を意識していると思います。

#### 疑問点

- ・ 14歳と29歳の女性に関して、見間違えるものだろうか
- ・ 殺害の動機が不明瞭
- ・ 最後に、真賀田博士を連れて行った三人の男は誰か。
- ・ 4章における「私、雨女だから……」発言。
- ・ 所長はなぜ、犯人をかばったのか

## 文章構成

「楽しかったわ、昨日から……」 そういつてから、萌絵は舌を出した。

「不謹慎ですね。恐かったし……、気持ち悪かったし、頭も痛くなって……。あの日のことも思い出して、悲しかったし……。でも、思い出したことを先生にお話して、なんだか、身体が軽くなったみたい。これで、このクイズの答えさえわかったら最高ののに……」

「クイズなんていったら怒られるよ」 犀川は小声で言った。「人が二人も亡くなったんだから」

「でも、それは、どこでもあることでしょうか？」 萌絵はさらりと言った。「ただ地理的に近くで起こっただけです」

「ふうん。君は変わっているね」 犀川は評価した。しかし、萌絵の言葉が、自分の考えに近かったので内心驚いた。

「先生だって、とびきり変わっていますよ」 萌絵が小さな口を結んで目を三日月型にする。

「ずいぶんご機嫌ですね？」

「え？ぼくが？」 犀川は少し驚いた。

「わかりますよ」 萌絵は右手の人差し指をこめかみに当てて言う。「何か気がつかれたのですね？」

「いや……」 犀川は首をふった。自分の機嫌が良いとも思えないし、何も気付いてはいない。しかし、確かに思い当たったことはあった。「そう……、Fのことかな……」

「エフ？」 萌絵は姿勢を正す。

「すべてがFになる、という言葉だよ」 犀川は言った。

「わかったのですか？」 萌絵は押し殺した声で叫ぶ。

「いや……、全然……」 犀川は微笑む。

「どういう意味です？」 萌絵は眉を寄せて、難しい表情になった。

: 文庫版 321 ページ、322 ページより抜粋

別になんていうことのないシーンです。

犀川と萌絵の台詞は、非常に無駄のない、いかにも頭の良い人間の会話です。これは全編を通じてこの調子なのですが、よく見てください。

## 本文構成

伏線の張り方が非常に上手い。ウエディングドレスを着た遺体が真賀田博士と明記しないあたりが素晴らしい。四季博士の様子が比喻で使われているのかと思われていた少女の様であるが、まさに少女であった点など。

## 16進数の説明

コンピュータで一般に使われている16進法こそがカギである。英字を当てているのです。10、11、12、13、14、15を、それぞれA、B、C、D、E、Fと表現します。Fとは15です、最大値です(10進法での最大値は9です)。その16進法が全て最大値になった時に(すべてがFになった時に)、あるプログラムが作動する、それが、黄色いドアが開いた秘密だったのです。

## 暗号の基礎理解

### ・シーザー暗号

単一換字式暗号の一種で、平文の各文字を辞書順に  $n$  文字だけシフトして暗号文をつくる暗号である。カエサル暗号とも呼ばれる。文字のシフト数は固定である

### ・総当たり攻撃

暗号解読方法のひとつで、可能な組み合わせを全て試すやり方。力任せ攻撃、もしくはカタカナでブルートフォースアタック（英：Brute force attack）とも呼ばれる。

・「踊る人形」は、イギリスの小説家、アーサー・コナン・ドイルによる短編小説。シャーロック・ホームズシリーズの一つで、56ある短編小説のうち27番目に発表された作品である。

暗号とその解読を用いた小説として有名である。

## まとめ

理系ミステリイと評される森氏であるが、文章自体は文学的センスに富んでおり、伏線の張り方も巧みである。近年、東野圭吾に代表されるように理系を扱ったミステリイが増えている。本作品は初代理系ミステリイと銘打ってもよいと思われる作品であるので、これを機会に理系ミステリイに親しむのもよいのではないだろうか。

最後に、期末試験が迫る中で『すべてがFになる』を取り上げた、理由を説明します。不吉に思われるかもしれませんが、毒を持って毒を制すってことわざを知ってますか？本文中にもこのことわざが出ております。

意味： 悪事・悪人を除くのに、他の悪事・悪人を利用すること。

つまり、Fを取り除くのにFを利用したわけです。

拙い、発表ではありましたが、これにてプチ例会を終わります。

To be continued...?